

4 ケータイモラルキャラバン隊 来場者アンケート結果

4.1 アンケート調査概要

ケータイモラルキャラバン隊に参加した保護者、教育関係者に対し、シンポジウム終了後にアンケートを実施し、シンポジウムの理解度と有用性、家庭等での情報モラル教育の現状、課題について調査した。

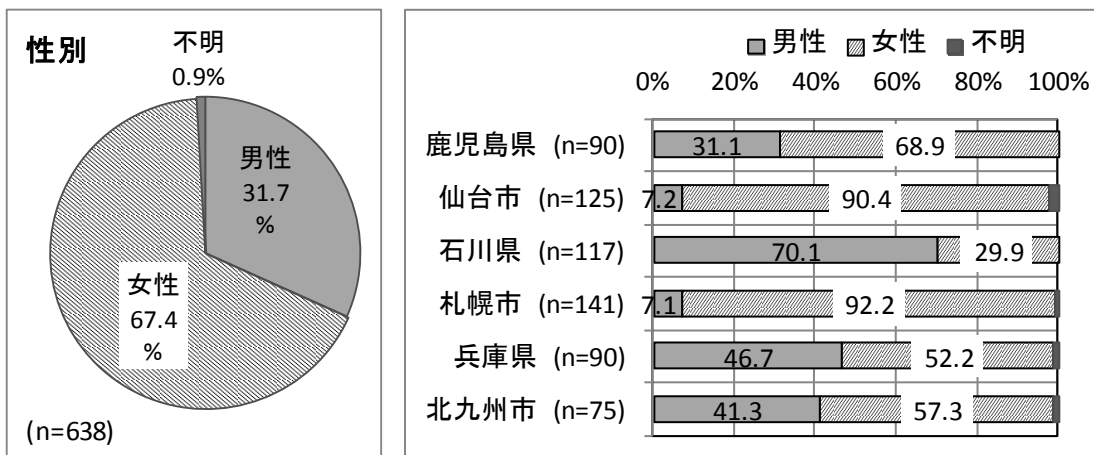
図表 4-1-1 アンケート調査概要

調査日	シンポジウム開催日。シンポジウム資料として配布。終了後に回収。			
調査対象者	シンポジウム参加の保護者、教育関係者			
調査方法	自記入式アンケート			
有効回答数	全会場合計 638			
	鹿児島県	90	札幌市	141
	仙台市	125	兵庫県	90
	石川県	117	北九州市	75
設問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者属性 ・子どもの情報通信機器利用状況 ・家庭でのルール設定の状況 ・シンポジウムへの理解度、有用性 ・ケータイモラル教育を行う上で充実して欲しい情報 			

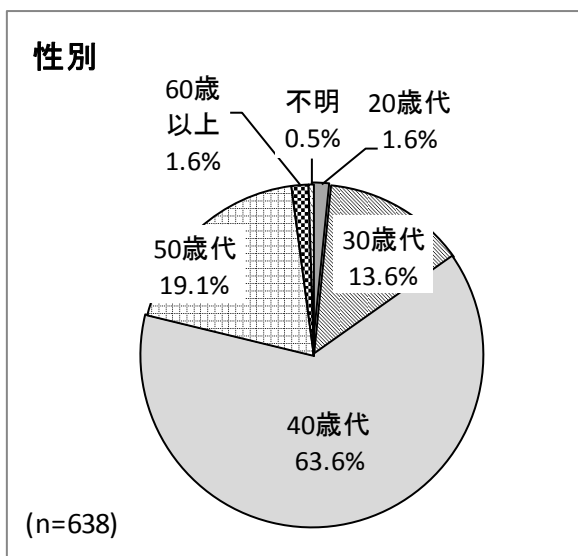
4.2 アンケート調査結果

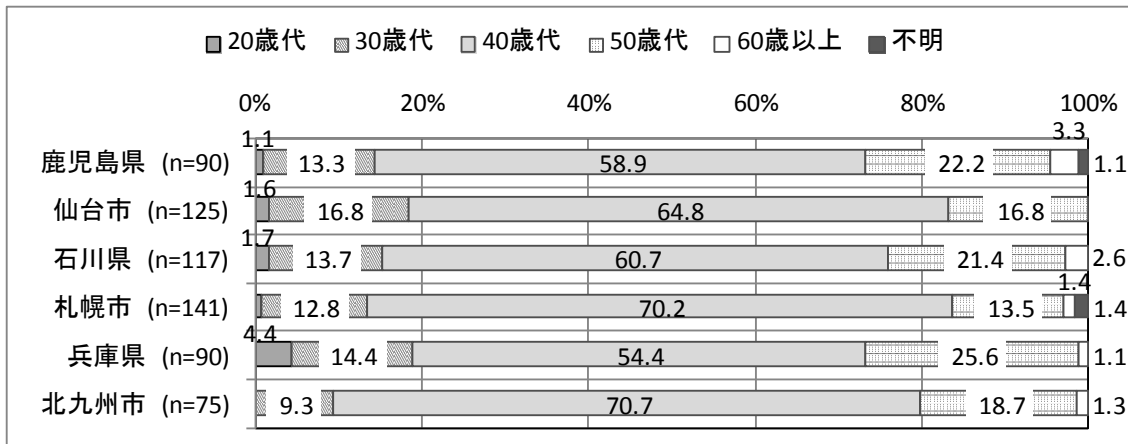
4.2.1 回答者属性

(1) 性別

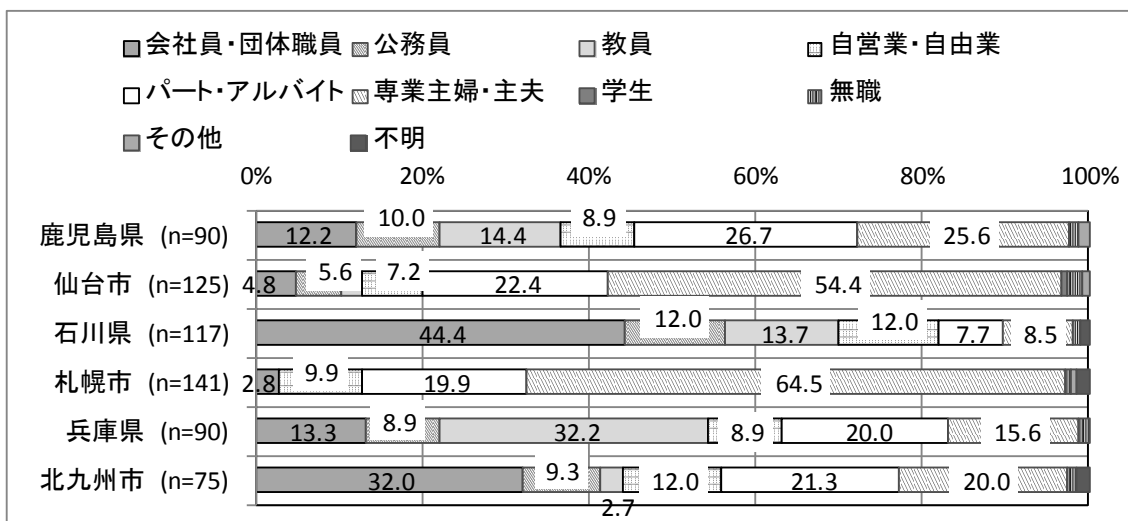
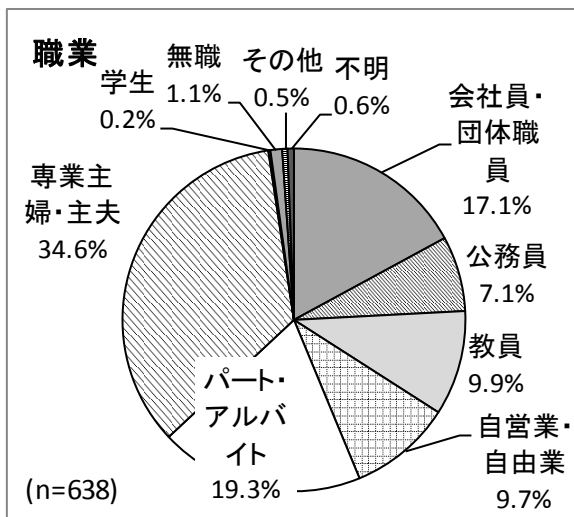


(2) 年齢

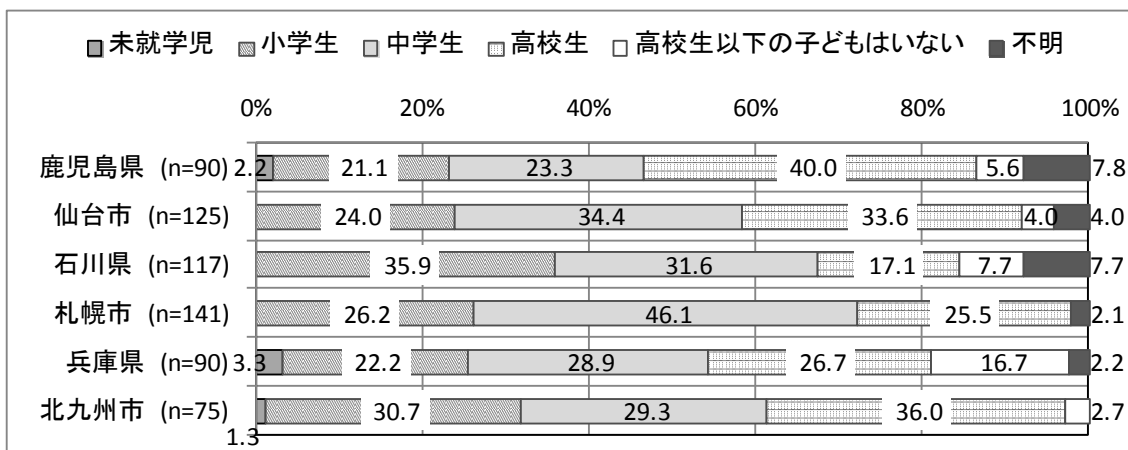
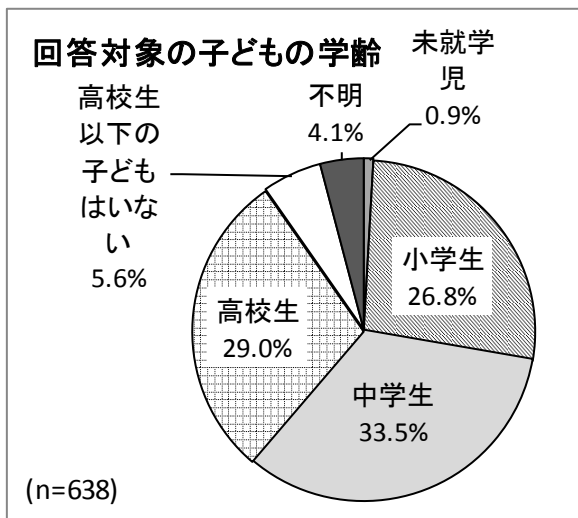




(3) 職業



(4) アンケートの回答対象とした子どもの学齢

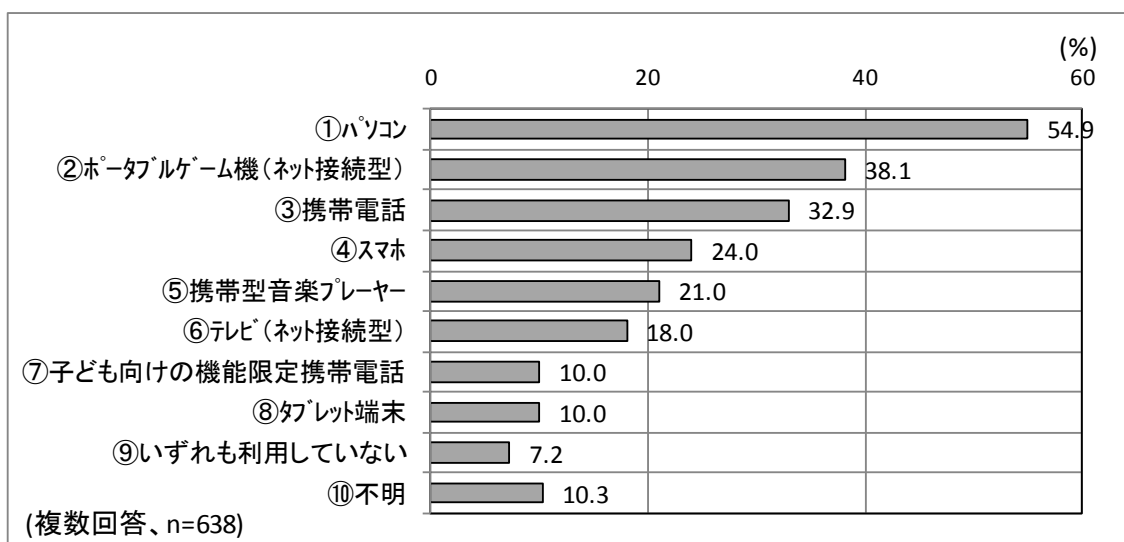


4.2.2 子どもの情報通信機器利用状況

(1) 子どもが利用している通信機器

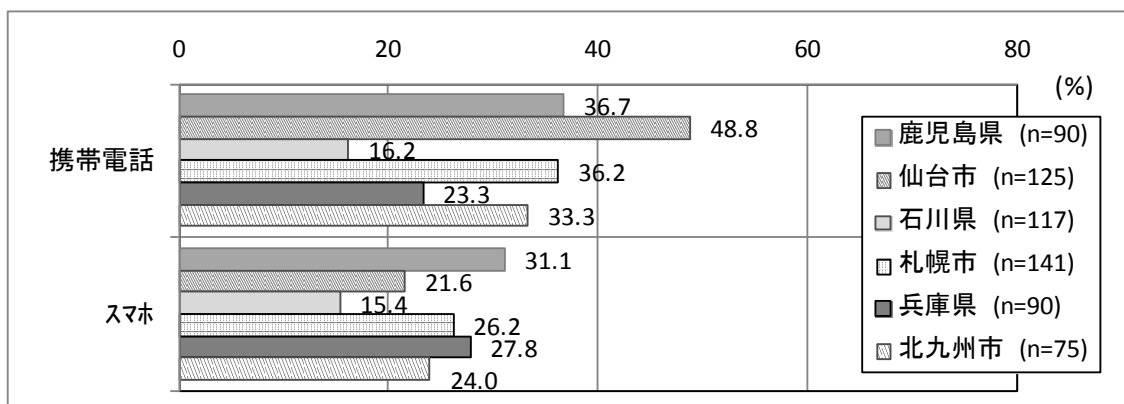
子どもが利用している通信機器として、「パソコン」が最も多く、「ポータブルゲーム機(ネット接続型)」が続いている。携帯電話は32.9%、スマホは24.0%に上っている。

携帯電話とスマホの利用率を開催地別で見ると、「いしかわ子ども総合条例」により、小中学生に対しては「携帯電話端末等を持たせないよう努めるものとする」と定めている石川県はいずれも利用率が低い。子どもの学齢別に見ると、いずれも高校生になると格段に利用率が高まっている。

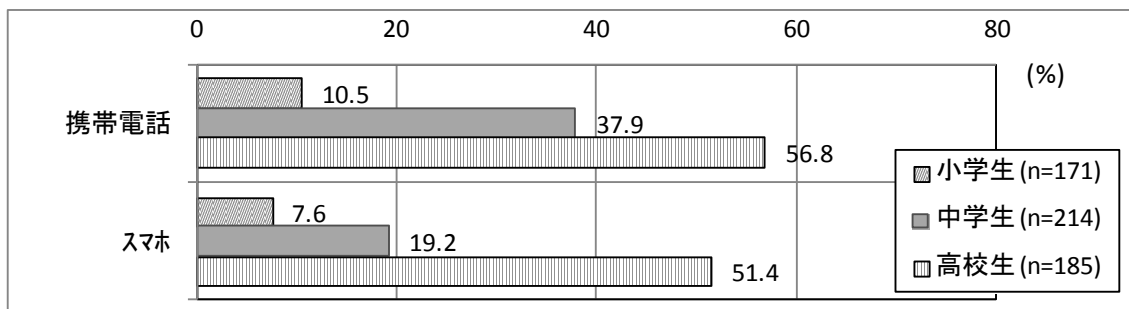


<属性別の回答>

①開催地別



②子どもの学齢別



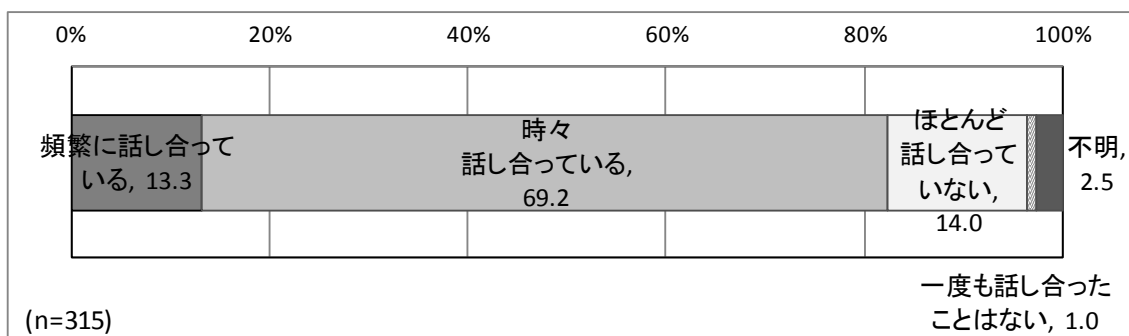
4.2.3 家庭でのルール設定の状況～携帯電話・スマホを利用している子どもの保護者

(1) 家庭での保護者と子どもの話合いの状況

携帯電話・スマホを利用している子どもを持つ保護者へ対し、その利用に関して子どもと話合いを持っているかと質問したところ、8割以上の保護者が、「頻繁」若しくは「時々」話し合っていると回答している。一方で15%近くの保護者が「ほとんど」若しくは「一度も」話し合ったことはない」と回答している。

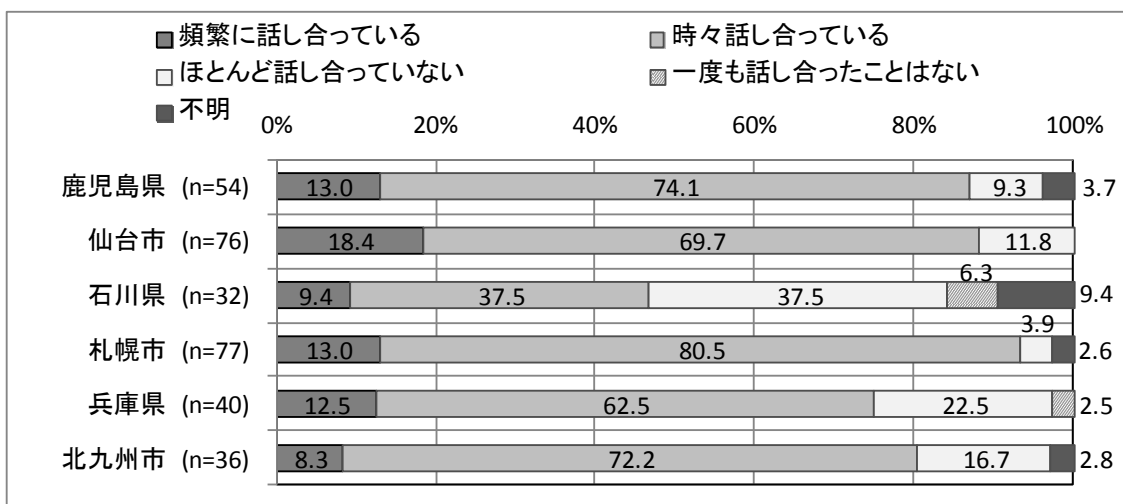
開催地別に見ると、石川県で「ほとんど話し合っていない」と回答した保護者の割合が高い点特徴的である。

子どもの学齢別に見ると、小学生・中学生の保護者は話し合っている割合が高いが、高校生になると話合いの頻度が下がることが分かる。

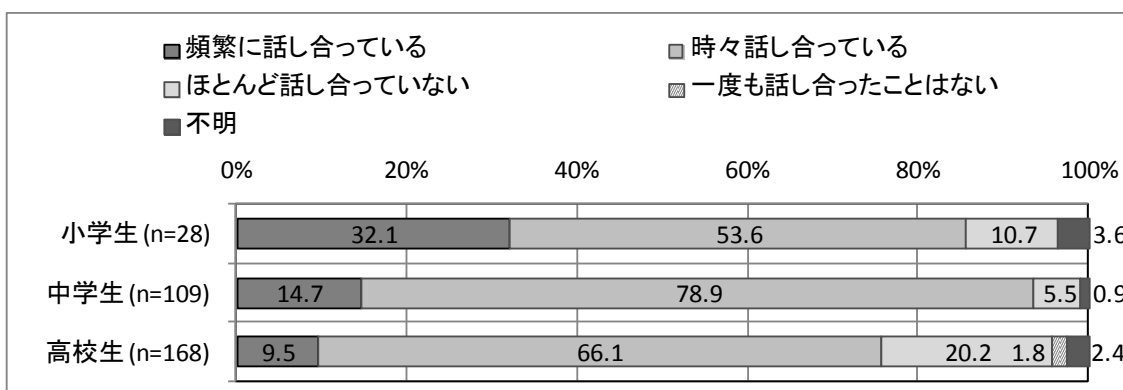


<属性別の回答>

①開催地別



②子どもの学齢

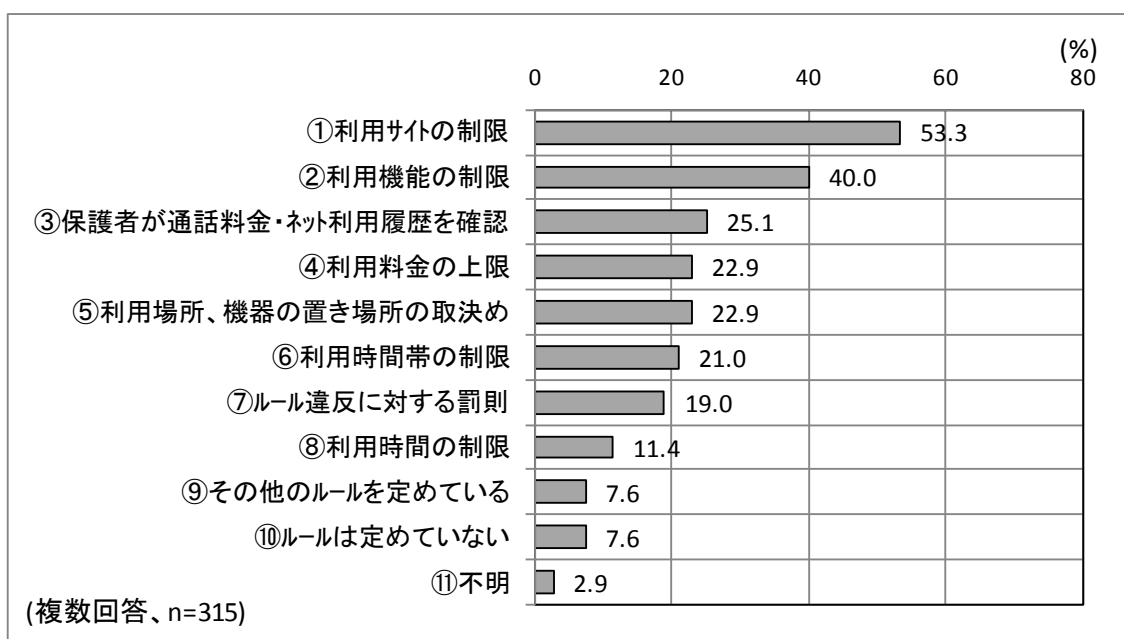


(2) 子どもの携帯電話・スマホ利用に関する家庭内のルール

携帯電話・スマホに関して家庭内で定めているルールとしては、「利用サイトの制限」が最も多く、「利用機能の制限」が続いている。

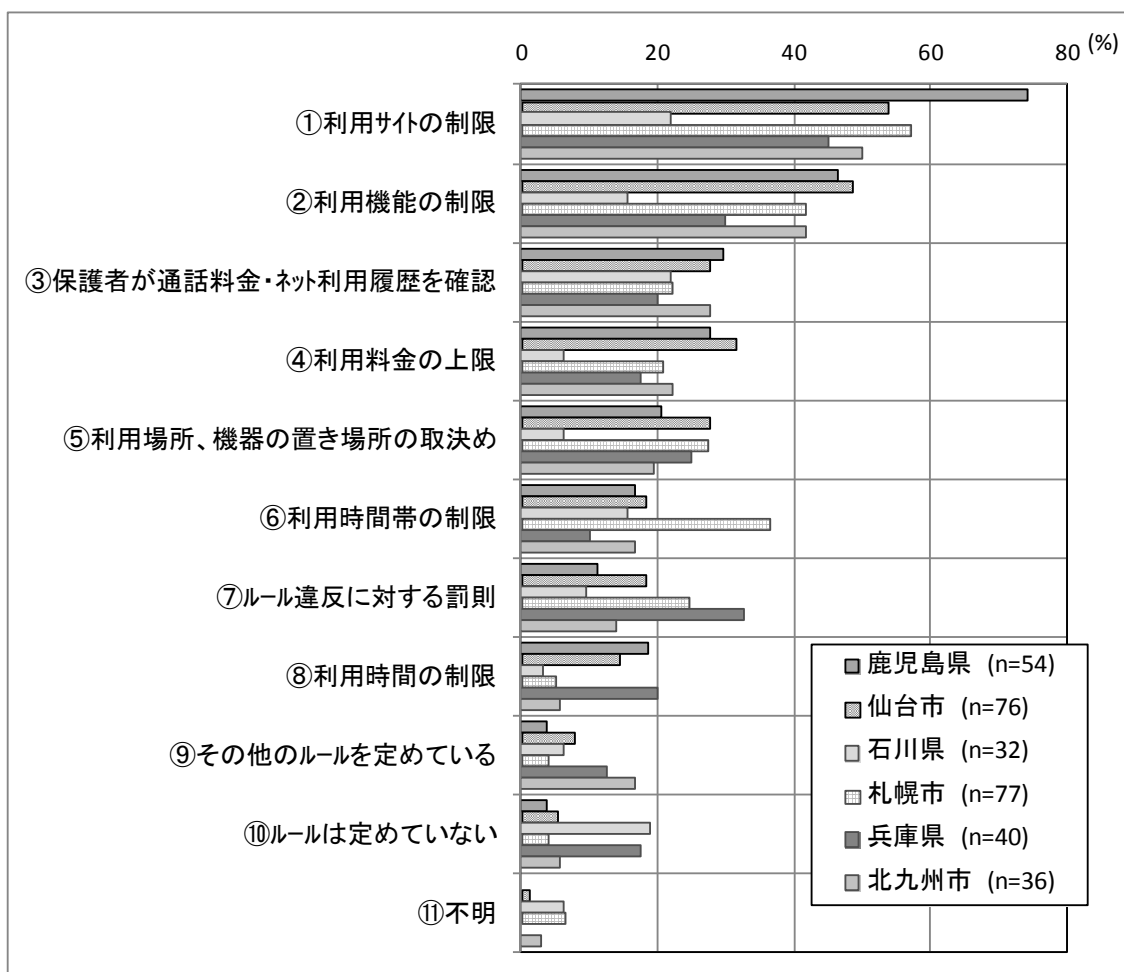
しかし、開催地別に見ると地域によってルールの定め方に少しずつ差異がある。また、子どもとの話し合いを行っていない保護者の割合が高かった石川県では(前項参照)、ルールを設定している割合が全体的に低い。

子どもの学齢別に見ても、傾向は異なっている。小学生は、「利用機能の制限」「利用サイトの制限」の順に多く、それ以外のルールを定めている家庭はそれほど多くない。中学生は、小学生と同様に「利用機能の制限」「利用サイトの制限」の順に多いが、それ以外にも「利用場所、置き場所の取決め」「利用時間帯の制限」「ルール違反に対する罰則」など、様々なルールが定められている。高校生では、「利用サイトの制限」が圧倒的だが、「利用機能の制限」を行っている家庭は少なく、むしろ「利用料金の上限」をルール化している家庭の方が多い。



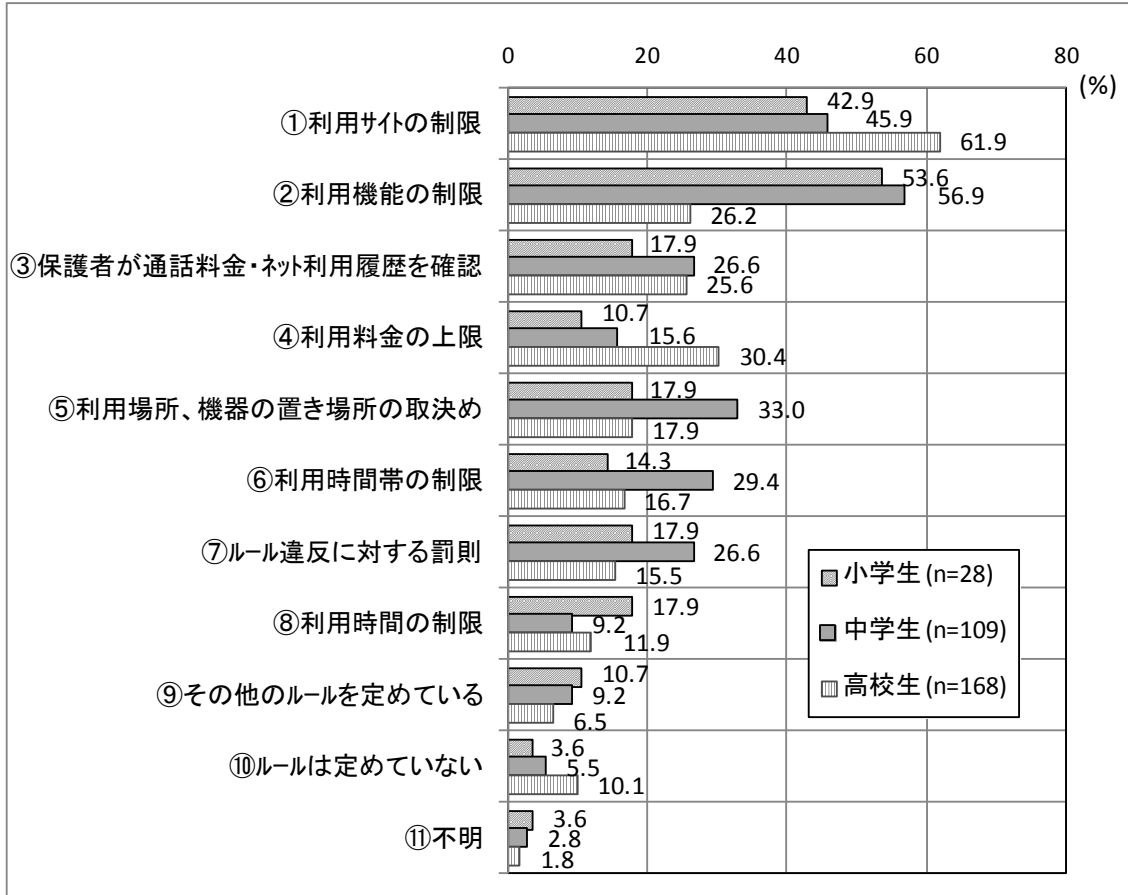
<属性別の回答>

①開催地別



	鹿児島県	仙台市	石川県	札幌市	兵庫県	北九州市
①利用サイトの制限	74.1	53.9	21.9	57.1	45.0	50.0
②利用機能の制限	46.3	48.7	15.6	41.6	30.0	41.7
③保護者が通話料金・ネット利用履歴を確認	29.6	27.6	21.9	22.1	20.0	27.8
④利用料金の上限	27.8	31.6	6.3	20.8	17.5	22.2
⑤利用場所、機器の置き場所の取決め	20.4	27.6	6.3	27.3	25.0	19.4
⑥利用時間帯の制限	16.7	18.4	15.6	36.4	10.0	16.7
⑦ルール違反に対する罰則	11.1	18.4	9.4	24.7	32.5	13.9
⑧利用時間の制限	18.5	14.5	3.1	5.2	20.0	5.6
⑨その他のルールを定めている	3.7	7.9	6.3	3.9	12.5	16.7
⑩ルールは定めていない	3.7	5.3	18.8	3.9	17.5	5.6
⑪不明	0	1.3	6.3	6.5	0	2.8

②子どもの学齢

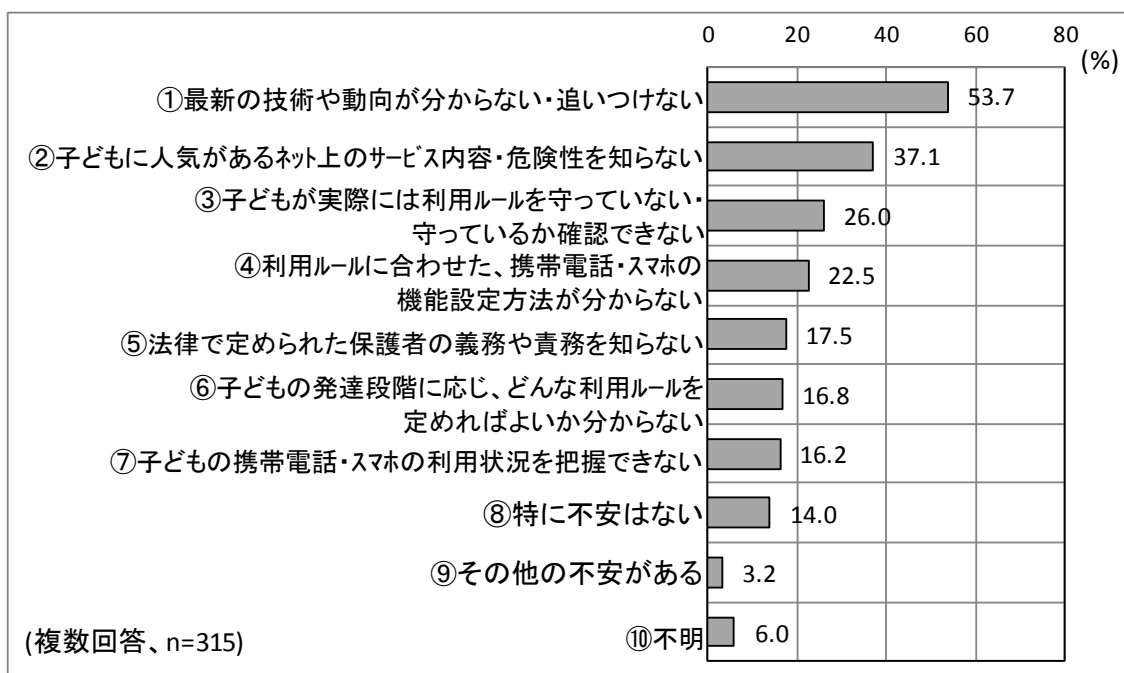


(3) 子どもと話し合う上で保護者が持っている不安

保護者が持っている不安として最も大きいのは「最新の技術や動向が分からない・追いつけない」であり、「子どもに人気があるネット上のサービス内容・危険性を知らない」が続いている。

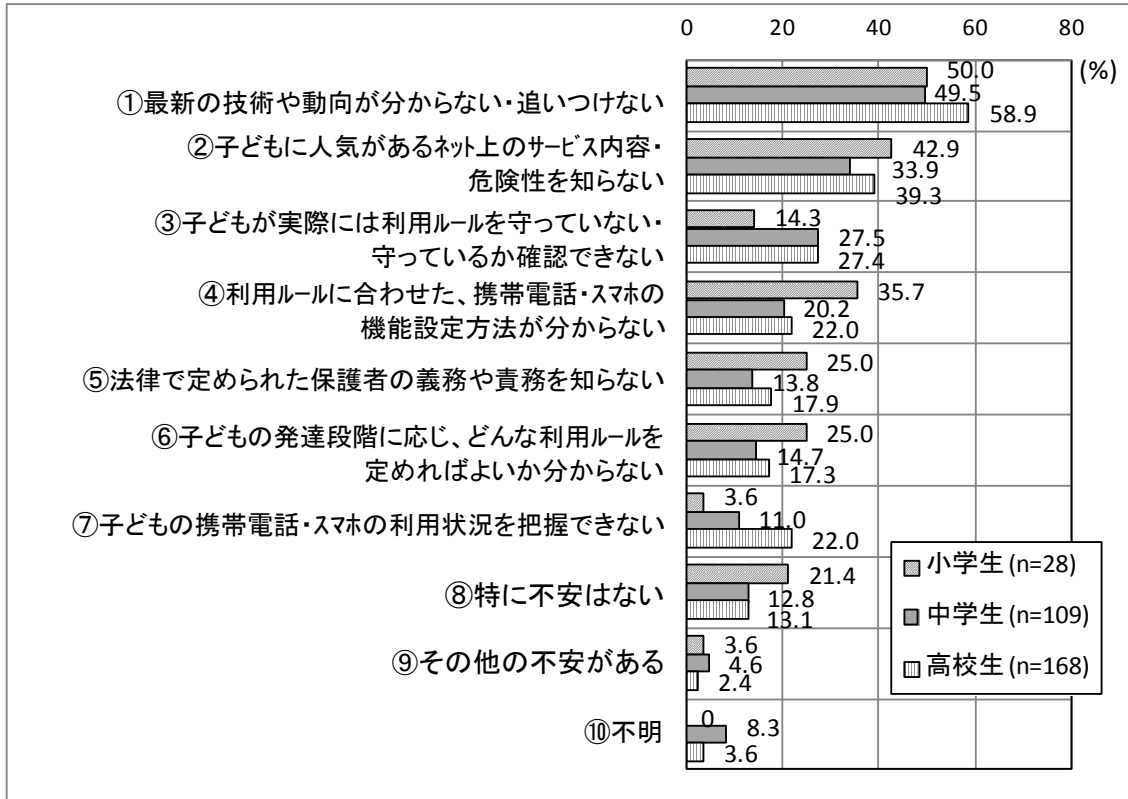
子どもの学齢別に見ると、小学生の保護者は中学生・高校生よりも「利用ルールに合わせた、携帯電話・スマホの機能設定方法が分からない」が多いところが特徴的であり、利用機能の制限を行っている家庭が多い(前頁参照)ことが背景にあると考えられる。また、学齢があがるにつれて「子どもの携帯電話・スマホの利用状況を把握できない」に不安をもつ保護者が多くなっている。

保護者の性別で見ると、男性保護者は「子どもの携帯電話・スマホの利用状況を把握できない」が多く、女性保護者は、「最新の技術や動向が分からない・追いつけない」「子どもに人気のあるネット上のサービス内容・危険性を知らない」が特に多い。

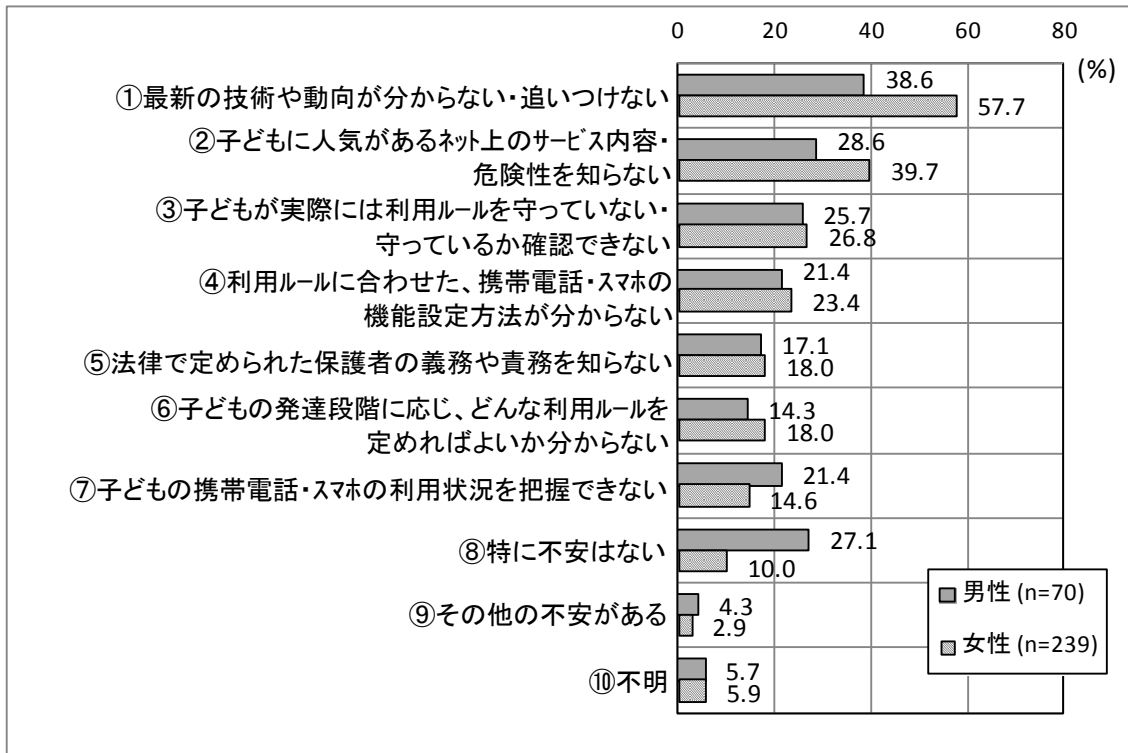


<属性別の回答>

①子どもの学齢



②保護者の性別

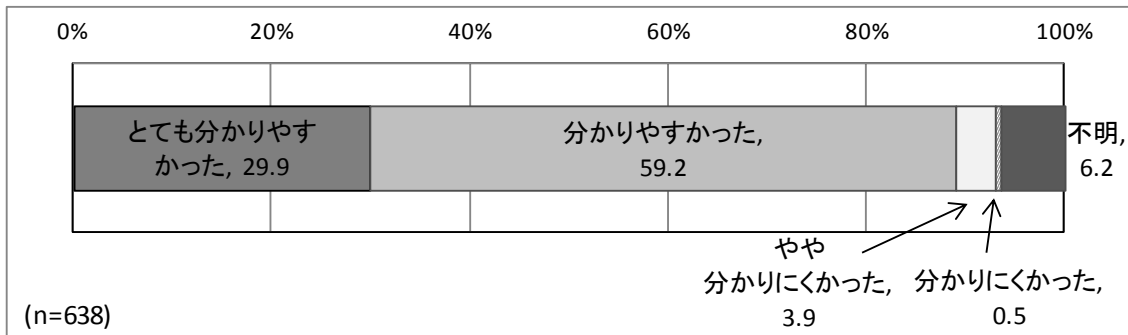


4.2.4 シンポジウムへの理解度、有用度

(1) 理解度

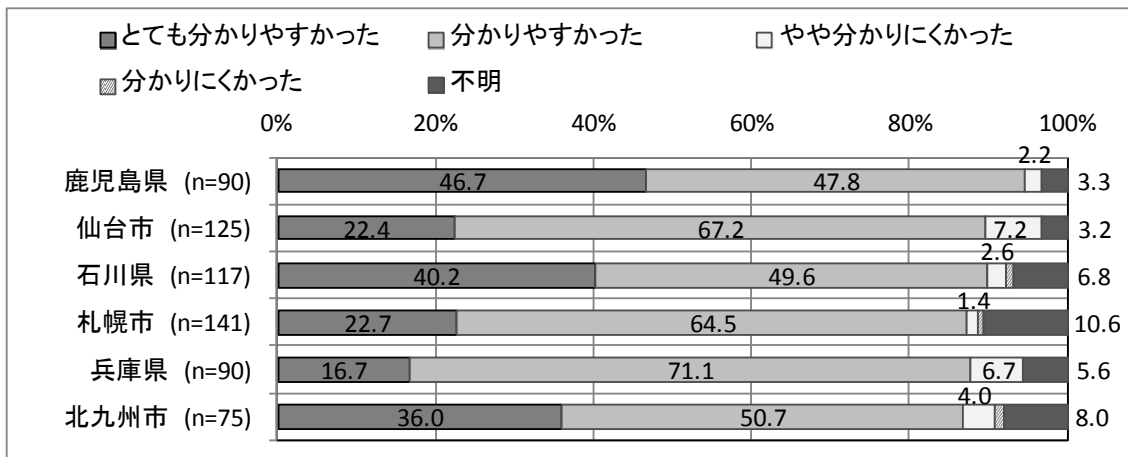
「とても分かりやすかった」と「分かりやすかった」が合計でほぼ9割に達しており、シンポジウムへの理解度は高かった。

開催地別に見ても、「とても分かりやすかった」と「分かりやすかった」という回答が全ての地域で9割近くに上っており、鹿児島県・石川県・北九州市では「とても分かりやすかった」という声が特に大きかった。



<属性別の回答>

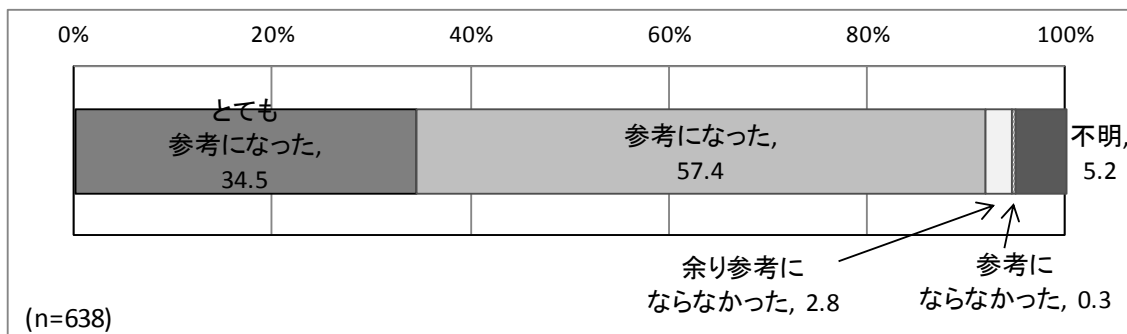
①開催地別



(2) 有用度

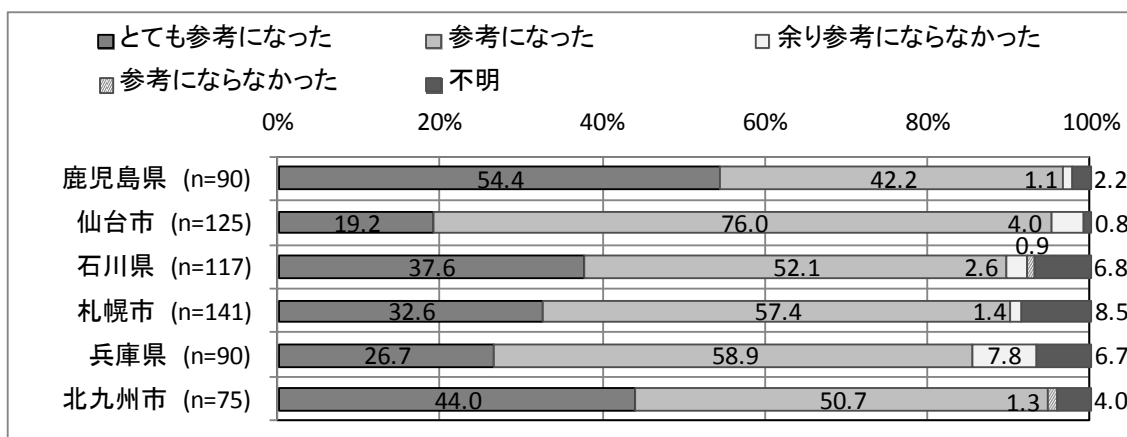
「とても参考になった」と「参考になった」が合計で 9 割を超えており、シンポジウムが有用であったという声が高かった。

開催地別に見ても、「とても分かりやすかった」と「分かりやすかった」という回答が全ての地域で 8 割を超えている。理解度のアンケートでも高評価を得ていた鹿児島県・北九州市では特に「とても参考になった」という声が大きかった。



<属性別の回答>

①開催地別

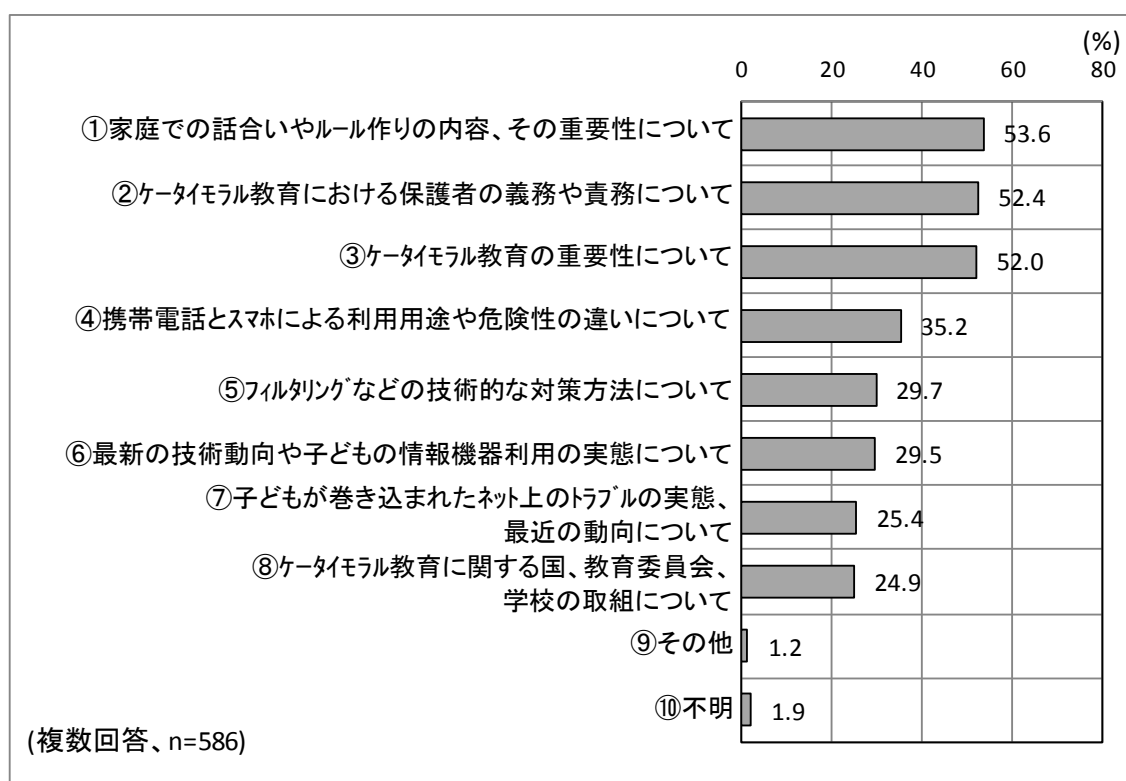


(3) 有用だと思った点～シンポジウムが参考になったと答えた保護者

「家庭での話し合いやルール作りの内容、その重要性について」を知ったことが有用だったと回答した保護者が最も多い。同様に「ケータイモラル教育における保護者の義務や責務について」「ケータイモラル教育の重要性について」知ったことに対しても有用だったとの回答も多く、本事業が保護者へのケータイモラル教育の「意識付け」の役割を十分に果たしたといえる。

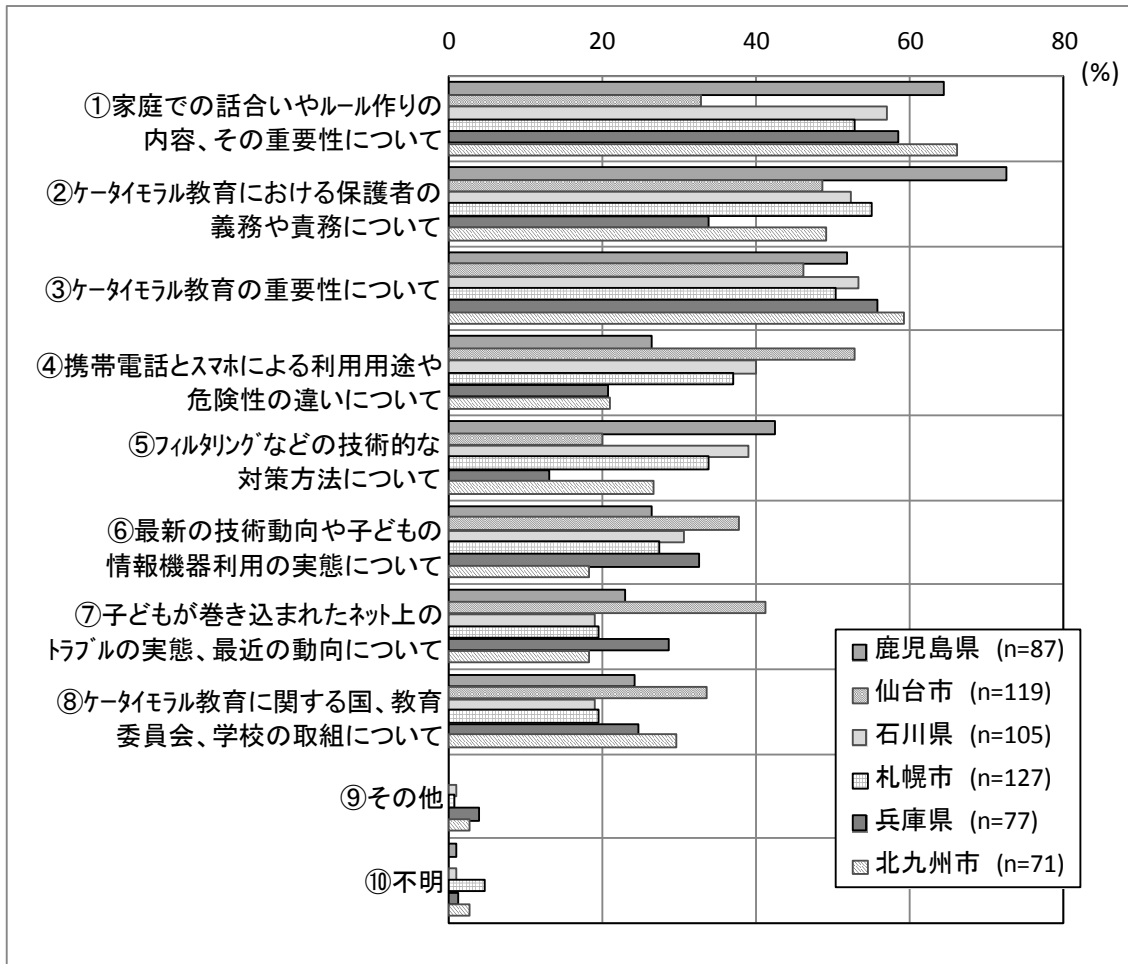
開催地別に見ると、仙台市では上記の3項目についての評価は他地域に比べてそれほど高くないものの、「携帯電話とスマホによる利用用途や危険性の違いについて」「子どもが巻き込まれたネット上のトラブルの実態、最近の動向について」などへの評価が他地域よりも高いところが特徴的である。

学齢別に見ると、小学生の保護者は、「家庭での話し合いやルール作りの内容、その重要性について」を知ったことに評価が高く、高校生の保護者は他に比べて「ケータイモラル教育に関する国、教育委員会、学校の取組について」を知ったことへの評価が高い。



<属性別の回答>

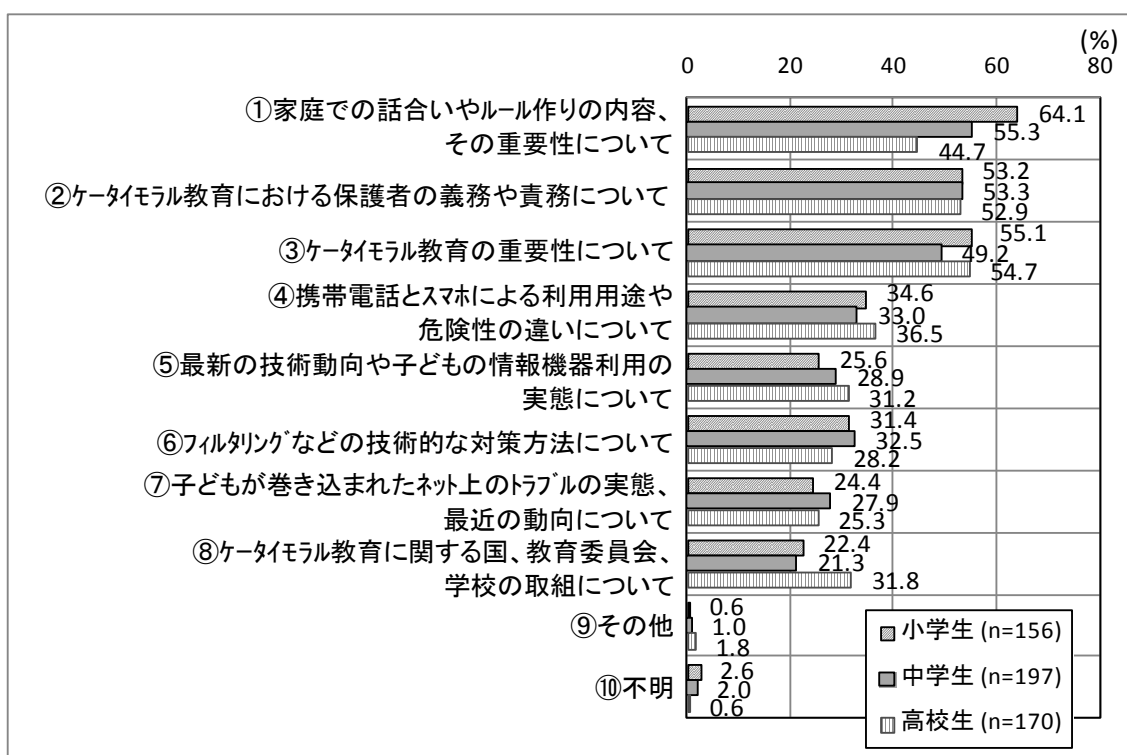
①開催地別



	鹿児島県	仙台市	石川県	札幌市	兵庫県	北九州市
①家庭での話合いやルール作りの内容、その重要性について	64.4	32.8	57.1	52.8	58.4	66.2
②ケータイモラル教育における保護者の義務や責務について	72.4	48.7	52.4	55.1	33.8	49.3
③ケータイモラル教育の重要性について	51.7	46.2	53.3	50.4	55.8	59.2
④携帯電話とスマホによる利用用途や危険性の違いについて	26.4	52.9	40.0	37.0	20.8	21.1
⑤フィルタリングなどの技術的な対策方法について	42.5	20.2	39.0	33.9	13.0	26.8
⑥最新の技術動向や子どもの情報機器利用の実態について	26.4	37.8	30.5	27.6	32.5	18.3

	鹿児島県	仙台市	石川県	札幌市	兵庫県	北九州市
⑦子どもが巻き込まれた ネット上のトラブルの実態、 最近の動向について	23.0	41.2	19.0	19.7	28.6	18.3
⑧ケータイモラル教育に関する 国、教育委員会、学校 の取組について	24.1	33.6	19.0	19.7	24.7	29.6
⑨その他	0	0	1.0	0.8	3.9	2.8
⑩不明	1.1	0	1.0	4.7	1.3	2.8

②子どもの学齢別

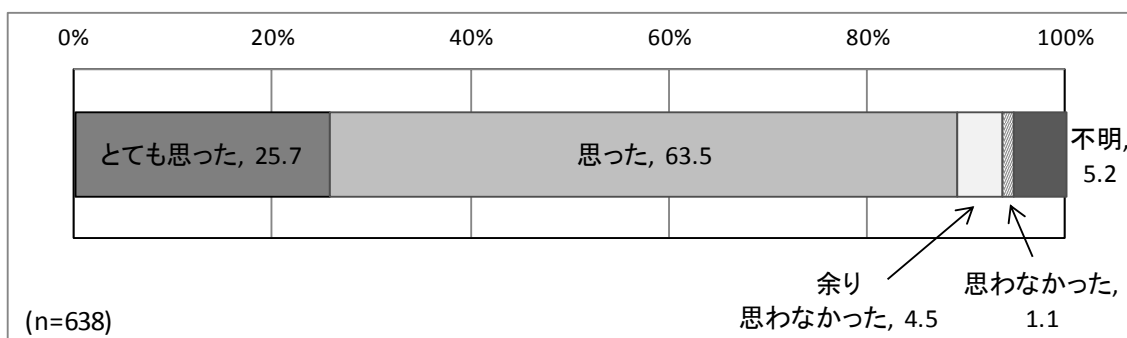


(4) 活動意欲への影響

シンポジウムを通し、自分自身が家庭でのケータイモラル教育や地域での啓発活動に取り組み「とても思った」「思った」が合計で 9 割に近く、具体的な行動に結び付けようという「動機付け」を図ることができた。

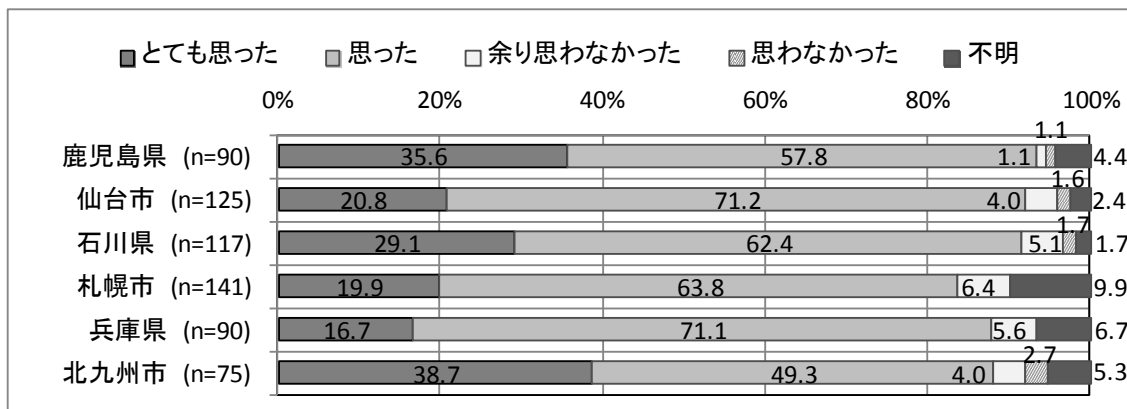
開催地別の傾向は、理解度や有用性の結果と同様の傾向を示している。

子どもの学齢別に見ると、「学齢が下になるにつれ活動意欲が高い」といった点が特徴的である。

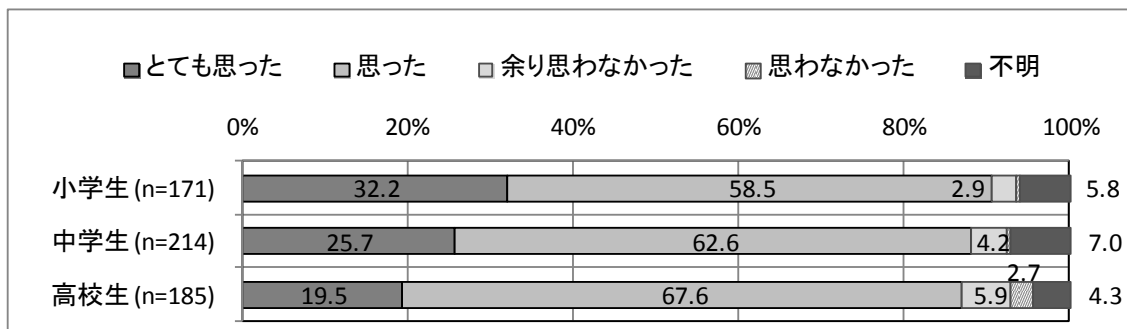


<属性別の回答>

①開催地別



②子どもの学齢

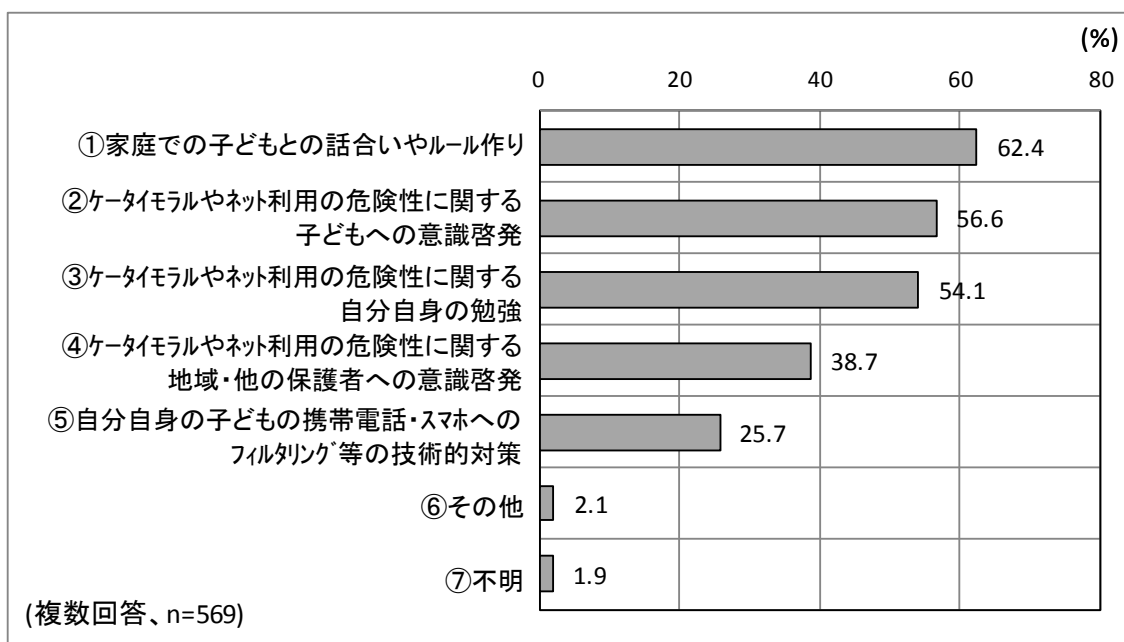


(5) 取り組もうと思った内容～自分自身がケータイモラル教育・地域啓蒙(けいもう)活動に取り組もうと考えた保護者

具体的に取り組みたいと考えた内容は、「家庭での子どもとの話合いやルール作り」が最も多く、「危険性に関する子どもへの意識啓発」、「危険性に対する自分自身の勉強」が続いている。これは、前項でシンポジウムが有用だと思った点として挙げられた項目と通じており、研修の成果があったことがうかがえる。

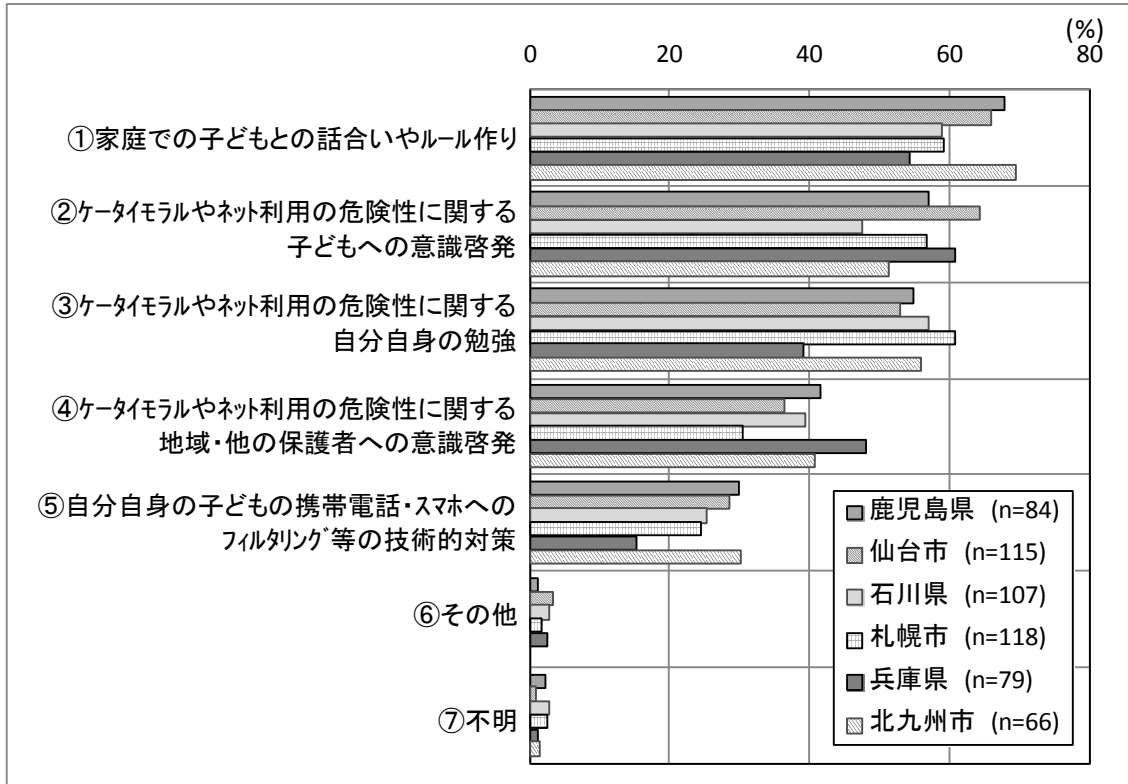
開催地別に見ると、仙台市で「危険性に関する子どもへの意識啓発」への意識が高まったところが特徴的であり、これはシンポジウムで有用だった点が「携帯電話とスマホによる利用用途や危険性の違い」や「ネット上のトラブルの実態、最近の動向について」に回答が集まっていたことの影響と考えられる。

子どもの学齢別に見ると、小学生では「家庭での子どもとの話合いやルール作り」を意識した保護者が多く、中学生では「危険性に関する子どもへの意識啓発」、高校生では「危険性に対する自分自身の勉強」が高い傾向がある。



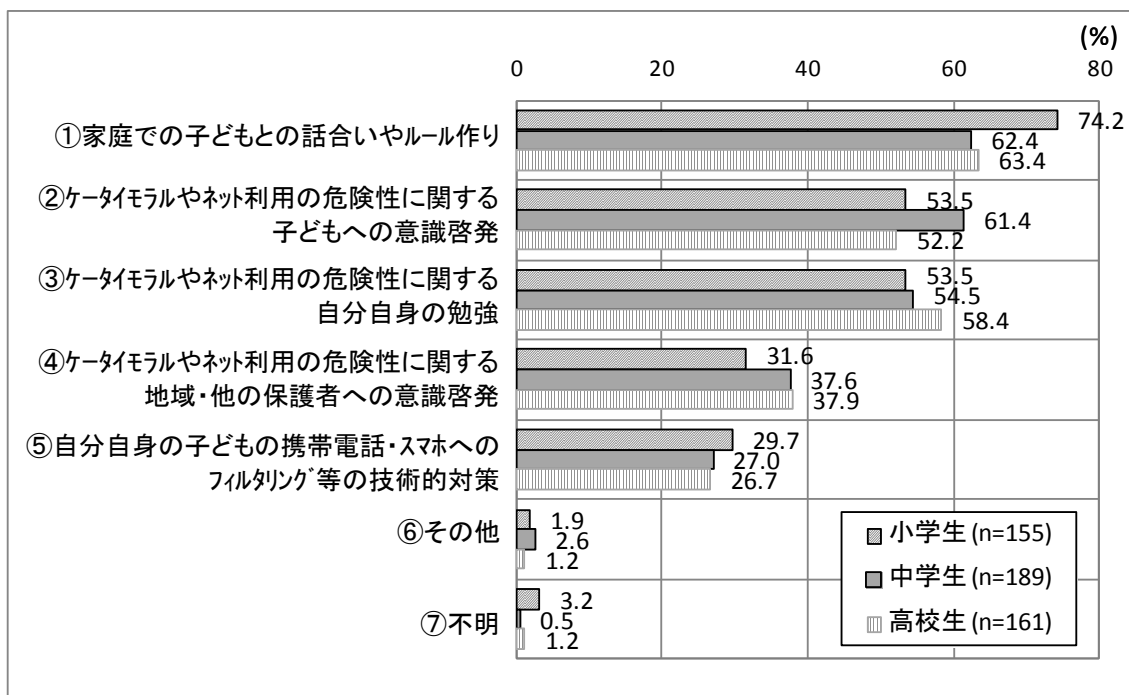
<属性別の回答>

①開催地別



	鹿児島県	仙台市	石川県	札幌市	兵庫県	北九州市
①家庭での子どもとの話合いやルール作り	67.9	66.1	58.9	59.3	54.4	69.7
②ケータイモラルやネット利用の危険性に関する子どもへの意識啓発	57.1	64.3	47.7	56.8	60.8	51.5
③ケータイモラルやネット利用の危険性に関する自分自身の勉強	54.8	53.0	57.0	61.0	39.2	56.1
④ケータイモラルやネット利用の危険性に関する地域・他の保護者への意識啓発	41.7	36.5	39.3	30.5	48.1	40.9
⑤自分自身の子どもの携帯電話・スマホへのフィルタリング等の技術的対策	29.8	28.7	25.2	24.6	15.2	30.3
⑥その他	1.2	3.5	2.8	1.7	2.5	0
⑦不明	2.4	0.9	2.8	2.5	1.3	1.5

②子どもの学齢



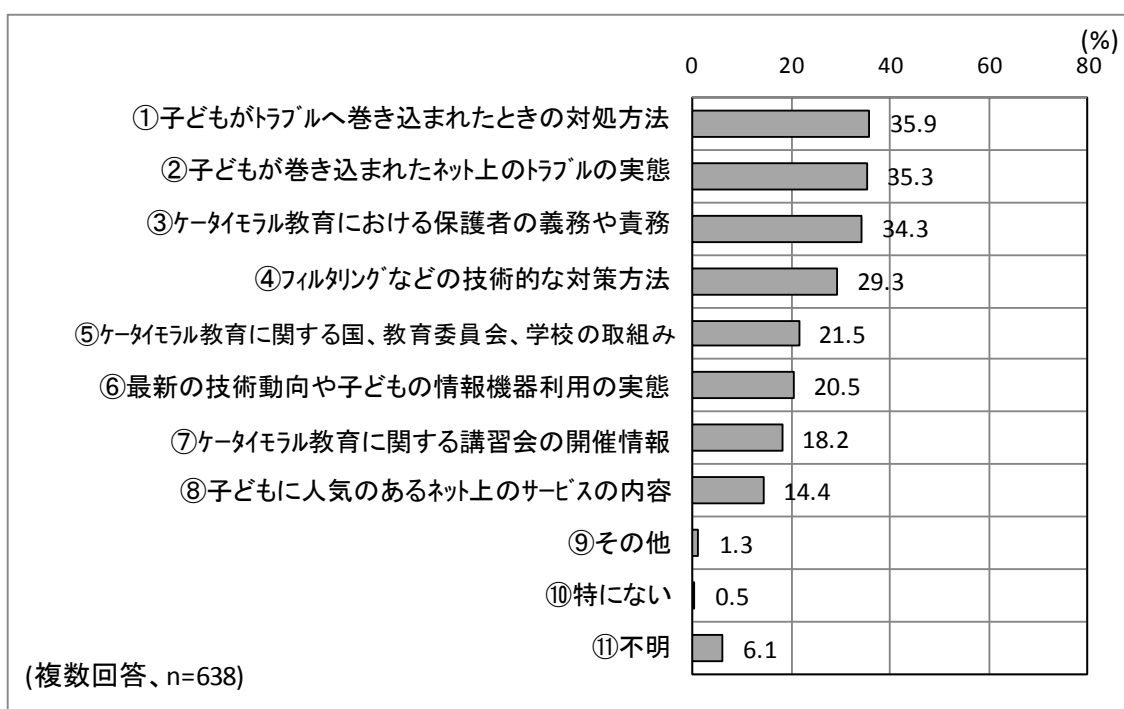
4.2.5 ケータイモラル教育を行う上で充実して欲しい情報

充実して欲しい情報として「子どもがトラブルへ巻き込まれたときの対処方法」、「子どもが巻き込まれたネット上のトラブルの実態」が挙げられており、トラブルに関する具体的な情報が求められていることが分かる。

子どもの学齢別に見ても同様の傾向であるが、高校生を持つ保護者の場合「最新の技術動向や子どもの情報機器利用の実態」「子どもに人気のあるネット上のサービスの内容」が他より高いことが特徴的であり、前頁で自分自身が勉強したいと答えた保護者が多かったことも関連する。

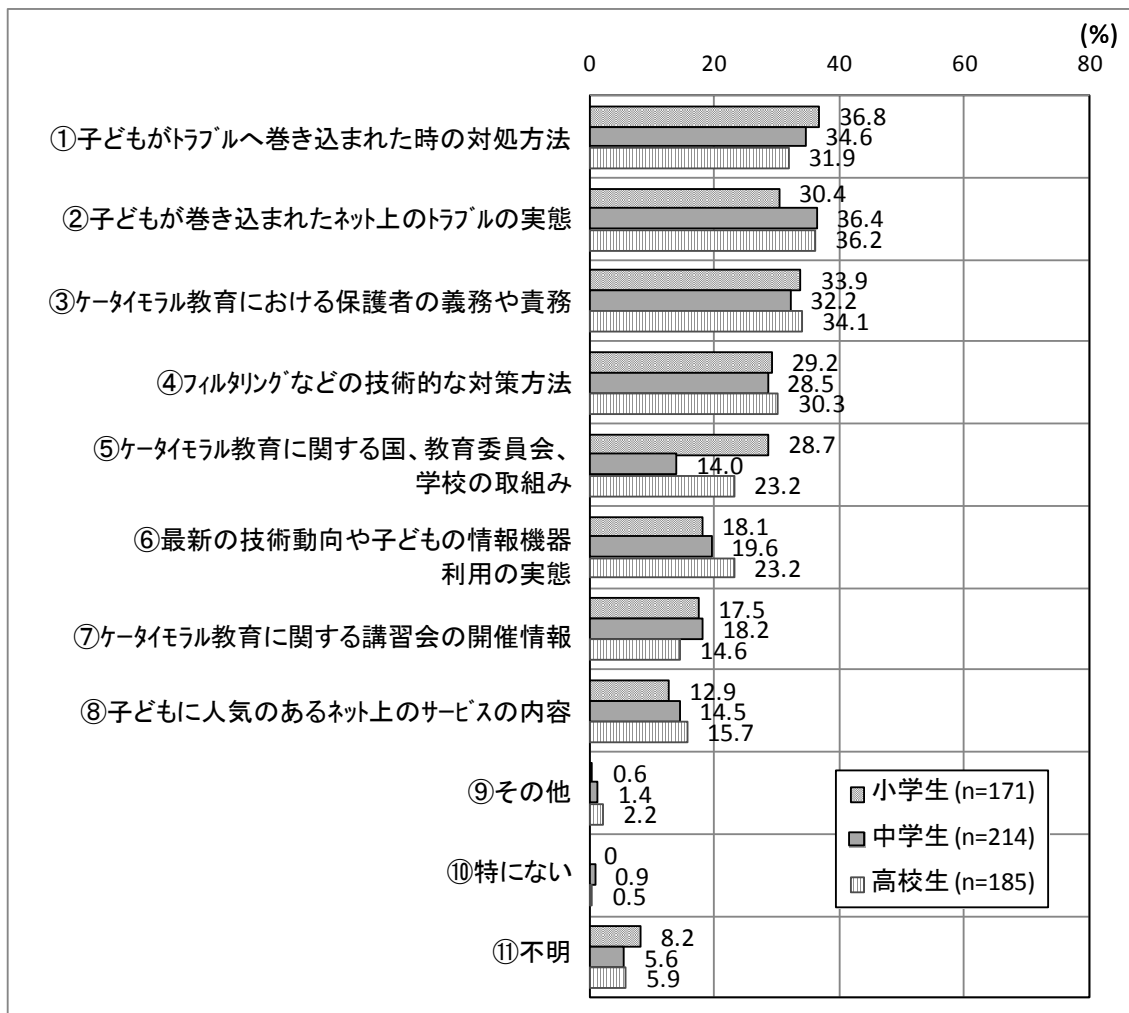
また保護者の性別で見ると、男性保護者は「ケータイモラル教育における保護者の義務や責務」「ケータイモラル教育に関する講習会の開催情報」への要望が高いことが特徴的である。

また、教員のニーズもほぼ全体的な傾向と同様であるが、「ケータイモラル教育に関する講習会の開催情報」への要望が高いところが目立つ。

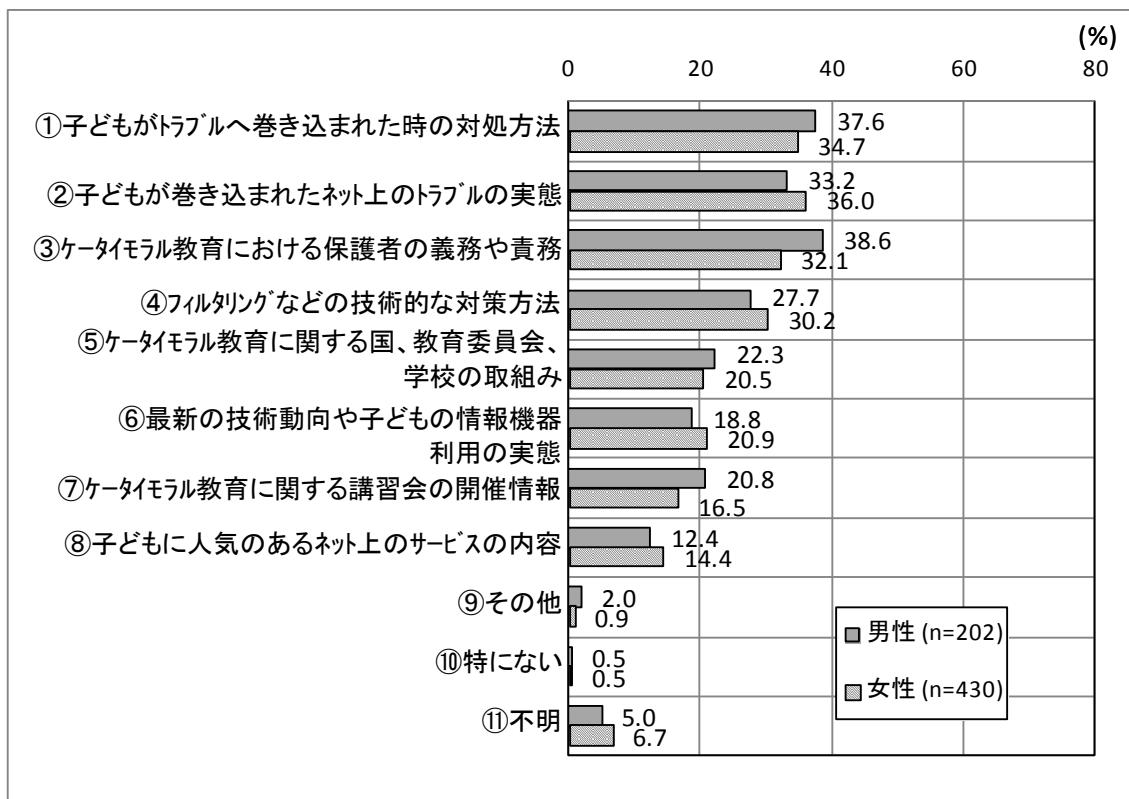


<属性別の回答>

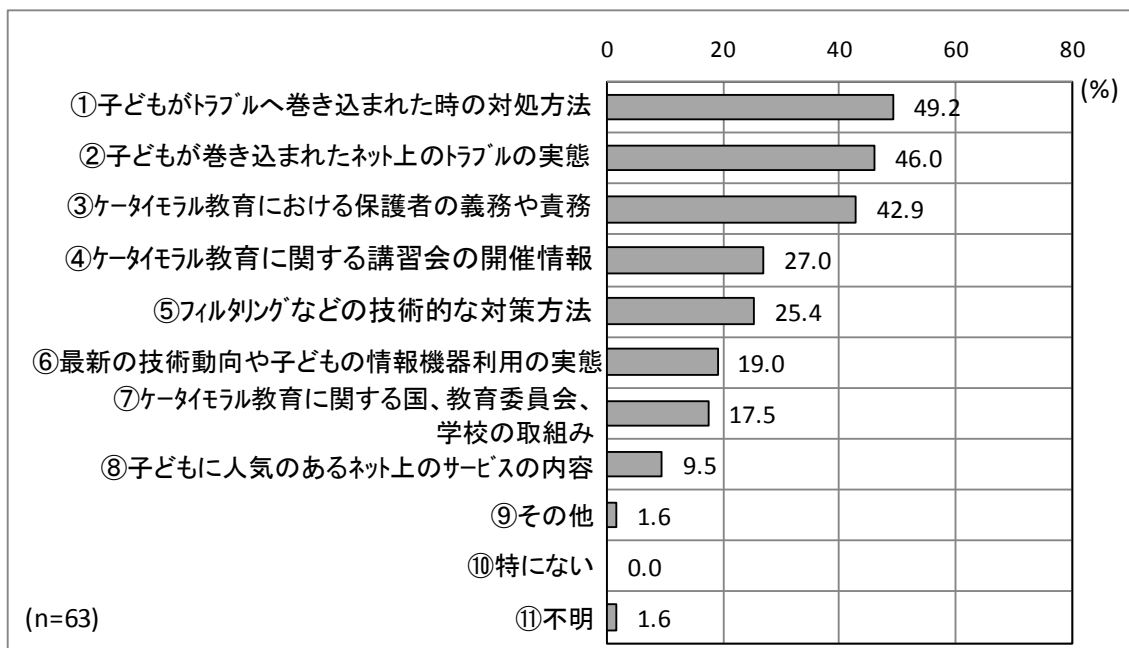
①子どもの学齢



②保護者の性別



③教員の意見



4.2.6 自由記述

アンケートの自由記述欄に寄せられた意見・要望は、参考資料3にて整理する。主な意見・感想は以下のとおりである。

※太字は特に多かった意見

シンポジウムの有用性、行動意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・大変勉強になる講演だった。分かりやすかった。 ・使用の仕方について、もう一度子どもと話し合ってみたいと思った。子どもに正しく伝えたい。 ・自分で判断する力や、コミュニケーションをとる大切さなどを教えてもらい勉強になった。 ・初めて聴く話が多く参考になった。 ・わからないからと放置せず、自らも勉強しようと思った。 ・既に子どもにスマホを持たせている。持たせる前に講演を聴きたかった。
研修開催、資料活用の要望	<ul style="list-style-type: none"> ・地区単位、学校単位で研修して欲しい。更に詳しい内容の勉強もしたい。 ・子どもや教員にも研修して欲しい。 ・もっと多くの人に参加してもらいたい。 ・研修資料を使用させて欲しい。
国、教育委員会、学校、企業への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会でネット巡視を行っているのは有り難いと思った。 ・情報機器やサービスを提供する企業にも、情報犯罪のない社会づくりに積極的に関わってほしい。
シンポジウムの内容・運営への意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・講演時間が短い。もう少し時間があつた方がよい。 ・子どもの帰宅時間に合わせるべきである。午前中の方がよい。 ・早口で聞き取りづらいところがあった。

4.3 アンケート調査結果から分かったこと

●家庭内での話合いやルール作りの現状について

- ・子どもの携帯電話等の利用に対し、ある程度は親子で話合いを行っている家庭が多い。小学生は、頻繁に話合いの機会も持つ保護者も多く、利用機能の制限やフィルタリングによる利用サイトの制限をした上で利用させている。中学生ではそれら以外に、利用時間や場所の制限・罰則なども取り入れながら保護者が見守る中で利用させている。高校生では本人の自主性を重んじて利用させているが、それゆえに適切に利用しているか把握できていないといった不安が高まっている。
- ・開催場所によって、利用状況や親子での話合い・ルール設定の状況は大きく異なっている。石川県では、携帯電話やスマホを利用する子どもの割合は低いですが、利用している子どもと保護者の話合いの機会が少なく、余りルール設定がなされていない。

●シンポジウム参加に対する満足度と実施の効果について

- ・シンポジウムが「分かりやすかった」、「参考になった」という評価がアンケートで寄せられており、自由記述でも同様の意見が非常に多く寄せられている。シンポジウムへの満足度は高かったと言える。
- ・今回のシンポジウムを通して、ケータイモラル教育の重要性はもちろんのこと、「ケータイ問題を通して子どもを育てる」という意識を持って子どもと話し合い、自分で判断できる力を習得させることの大切さを痛感したという参加者が多かった。結果、自らも家庭での話合いや地域での啓発活動に「取り組もうと思った」という参加者が 9 割近くに上った。ケータイモラル教育の「動機付け」としての役割をシンポジウムが十分に果たしたと言える。
- ・シンポジウム参加者は PTA 役員が中心だったこともあり、シンポジウムで紹介した e-ネットキャラバンや民間事業者による出前講座を是非行いたいといった声も上がっていた。意欲が高まった参加者が最初の一步を踏み出すための具体的な方法を提示できたといえる。

●今後充実が求められる情報について

- ・ケータイモラル教育を行う上で充実して欲しい情報としては、子どもが巻き込まれたトラブルの実態や、トラブルへの対処方法などが挙げられている。また、家庭で子どもとの話し合いを行う上で最新技術動向の知識に不安を覚えている保護者も多く、こういった点へのフォローが今後重要になってくる。特に高校生の保護者からは、子どもが利用しているサービス等について自分自身が勉強していかなければならないとの問題意識も強い。
- ・子どもに携帯電話・スマホを買い与える前にシンポジウムを聞いたかったという声が寄せられている。「持たせる前」に保護者の意識啓発を十分に行うことが求められる。
- ・地区単位の研修や、学校単位での研修など、幅広い層の保護者・教育関係者への意識啓発が必要である。子どもにも直接聞かせたいといった声も多いが、教員からは教員だけでは教えられないといった声も寄せられている。

●シンポジウムの実施・運営について

- ・時間が不足しているといった声が多く聞かれた。また、小学生を持つ保護者を中心として、午前中開催の要望が大きかった。
- ・もっと多くの人に参加を呼び掛けた方がよいとの声が多かった。